



6月度の御書

きとうしょう 「祈禱抄」

御文

大地はささばはづるるとも
虚空をつなぐ者はありとも
潮のみちひぬ事はありとも
日
は西より出づるとも
法華経
の行者の祈りのかなはぬ事は
あるべからず

(御書1351ページ)

意味

大地をさして外れることがあつても、空と空をつなげる人がいたとしても、海の潮が満ちたり引いたりすることがなくなっても、太陽が西からのぼることがあつても、法華経の行者の祈りがかなわないことは絶対にはないのです。

あきらめずに祈り、挑戦すれば必ず幸せに

やあ、みんな！ ボクは、ライオン博士のキング君。
6月は多くの地域で梅雨の季節。日本だと梅雨は毎年、同じようにやってくるよね。こうした自然の法則は、他にもいろいろあるんだよ。
例えば太陽。みんなは太陽がどの方角からのぼってくるか知ってるかな？
太陽は東からのぼって西にしずむ。太陽が「西からのぼってくる」というのは、絶対にありえないことなんだ。
ところが御文で日蓮大聖人は、そういう実際には「ありえないこと」の例えをいくつかあげられているよ。
今回のポイントは、その後につづき最後のところ。もしこんな「ありえないこと」が起きたとしても、「法華経の行者」の祈りがかなわないことは絶対にはないと言われているんだ。「法華経の行者」の祈りは必ずかなうと力強く教えてくださっているんだよ。

法華経は、だれもが自分の中に、幸福になり勝利していることのできる「しし王の生命」を持っていると示した教えだよ。
無限の可能性をひめた「しし王の生命」が自分にも他の人にもあると信じ、どんな時もあきらめない心で祈る。あきらめない心で、夢や目標に挑戦する。周りの人たちを尊敬し大切にしながら、はげましをおくり続ける――。
そうやって毎日、挑戦と努力を重ねていく「法華経の行者」の祈りは、必ずかなっていくんだよ。しかも自分も幸福になり、絶対に勝利していけるように、願いがかなっていくんだ。

そして「南無妙法蓮華経」のお題目は、どんなきよりもこえて全てに通じていく。
池田先生は語られているよ。
「私は、みなさんの成長と幸せを祈りに祈っています。だから私の生命と、みなさんの生命は、題目でつながっています」

「法華経の行者」とは、仏法を正しく実践し、自分にも周りの人たちにも幸福を広げていく人のこと。別の言い方をすれば、自分自身、そして周りのみんなの幸福と勝利を「あきらめない人」のことなんだ。

先生の深い祈りに包まれていることを「勇気の力」にして、ボクたちも一日一日を元気いっぱいいの祈りから出発していこう！